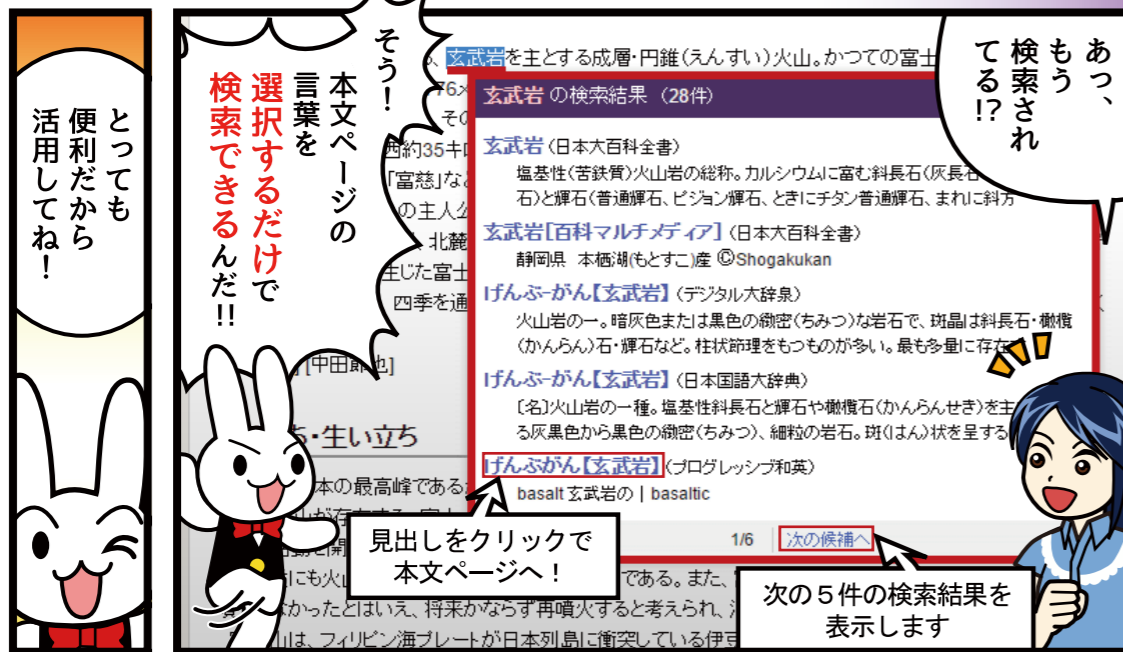


超便利機能ナレッジサーチャー！の巻



<http://japanknowledge.com/articles/blogcomic/list.html>

↓ PDFサービス実施中！
 「なるほど！ザ・ジャパンナレッジ全部入りPDF」(約10MB)をご用意しました。
 ダウンロードして図書館での展示などにお役立てください。
http://japanknowledge.com/file/articles/blogcomic/naruhodo_jk.pdf



インタビュー図書館びと

今年の夏の宿題にも
 ジャパンナレッジはオススメです

岡崎市立中央図書館情報サービス班 高橋沙織さんに聞く

岡崎市立中央図書館は、岡崎市の中心部康生地区に位置する生涯学習複合施設「Libra (りぶら)」の中核的存在です。ちなみに「Libra (りぶら)」という愛称は、「図書館」を意味する「Library」と「自由」を意味する「Liberty」を組み合わせた造語です。デジタル資料についても充実しており、「ジャパンナレッジ」も含めて、29のデータベースを備えているそうです。

——実際の利用状況は、いかがですか？

高橋さん：利用者の方には予約端末で受付していただきます。利用時間は1時間で、PCは全部で4席、その内オンライン系が2席、CD-ROM系が2席になります。ジャパンナレッジに限らず、データベースは頻繁に使っていただいています。一度利用された方が、使い勝手がよかったということで、個人的に使われることも多いようです。利用端末のすぐ隣に使い方の説明書も置いてありますし、それでも使い方がお分かりにならない時には、適宜職員が対応します。また、職員がカウンターでリファレンスする

際に「こういうデータベースあります！」と紹介して、以降気に入って使ってください方も多いようです。関連書籍がまったく無くて困った時に、ジャパンナレッジで調べてみると、出てくる！と、職員も大変助かっています。

——2014年夏の利用率が、かなり高かったようなのですが。

高橋さん：高校生のみなさんの利用が目立ちましたね。データベースを使って夏休みの宿題をしていたようで、毎日データベース席が満席になっていました。高校生の中で話題が広まったようです。「図書館にデータベースが入ってるよ」「じゃあ、使いに行こう」というノリで来てくれたようです。「図書館に行って、調べれば、宿題だって何とかできる」そんな動機でも持っていたら、口コミで広がって、どんどん使われていくツールなんだと思います。最近、図書館でtwitterとFacebookを始めましたので、そういったツールを使って、若い世代に向けて、情報発信していければいいな、と思っています。

——2015年の夏休みにもジャパンナレッジがどんどん使われるといいですね。本日はありがとうございます。

2015年3月1日現在

徳川家康生誕の地 歴史が息づく街の図書館
Libra 岡崎市立中央図書館

所在地：愛知県岡崎市康生通西4丁目71番地
 電話：0564-23-3111
 休館日：水曜(水曜が祝日にあたる場合は開館)・年末年始(12/29～1/3)
 開館時間：9:00～21:00

セミナーマニュアル 自分史をつくらう!

去る2014年10月26日(日)に、愛知県の岡崎市立中央図書館で「自分史」をテーマにした一般来館者向けのデータベース活用セミナーが行われました。今回は、こちらを例にとり、どのようにすれば魅力的なセミナーが構築できるかを解説していきたいと思ひます。

魅力的なテーマを発想する

高価なデータベースの利用率を如何に向上させるかは、どの図書館でも悩みの種かと思ひます。岡崎市立図書館でも利用者向けのセミナーの内容で、毎年四苦八苦していました。ただ単純に「データベースセミナー」と銘打っても、利用者は具体的に使うイメージが湧かずに、逆に敬遠されてしまいます。そんな中、今年に入って、「自分史を作るにはどうすればいいか?」「お祖母さんの歴史を調べたい」というリファレンスが多くなっていることに気付いたそうです。元々、歴史に縁のある土地柄もあり、データベースを利用した自分史作りをテーマに据えてみては、ということになりました。ここで大事なことは、実際の利用者の興味を探り、それに即したテーマを発想できたという点でしょう。

データベースの理解と整理

自分史というテーマが決まったところで、実際に役に立つデータベースを選択します。これには、図書館で契約しているデータベースの特性を理解しなければなりません。つまり、日頃より図書館員のみならず、データベースを利用していることが第一条件となります。今回、岡崎市立図書館では、「朝日新聞記事データベース 聞蔵Ⅱビジュアル」と「ジャパンナレッジ Lib」を選択しました。「聞蔵Ⅱビジュアル」で、実際の出来事を紙面で検索し、分かりにくい言葉などは、「ジャパンナレッジ」で確認する、という手順です。

講師の依頼

データベース自体の解説に関しては、運営会社をお願いするという手もあります。利用率向上は、運営会社にとっても重要な命題ですので、内容によっては、協力してくれる可能性は十分にあります。今回は、「聞蔵Ⅱビジュアル」からは、朝日新聞東京本社デジタル本部の汲田和久氏、「ジャパンナレッジ」からは、弊社ネットアドバンス、ビジネスセンターの酒井康治が、講師として参加しました。

「ジャパンナレッジ」では、利用率向上のために、講習会のお手伝いをいたします。「ジャパンナレッジ」の使い方などの講習会に限り、ご契約内容に応じて、講師を派遣いたします。まずは、下記宛にお気軽にご相談ください。

b2b@japanknowledge.com

告知と集客 SNSの活用

セミナーの告知は、館内のポスター、配布チラシ、市政だより、ホームページなど発信媒体はフル活用しています。さらに、Facebook や twitter などの SNS (social networking service) も積極的に使い、告知だけでなく、セミナーの様子なども、すぐにアフターレポートされています。また、カウンターの付近に、「自分史」について書かれた関連図書を集めて展示し、定期的に図書館を訪れる利用者の方にアピールしました。この関連書のリストはセミナー告知チラシの裏面にも掲載されており、利用者が少しでも手に取り、持っていきたいような工夫が施されています。



岡崎市立中央図書館(りぶら) Facebook



テーマ展示に「自分史」関連書籍が集結

自分史をつくらう!

参加無料

データベース活用セミナー

図書館ではパソコンを使って、さまざまなデータベースから簡単に調べることができます。今回は、「自分史をつくらう!」をテーマに、専門の講師によるデータベースの活用セミナーと、自分史作り相談会を開催します。

◎日時 平成26年10月26日(日)午後1時30分~3時
◎会場 岡崎市立中央図書館 1階103会議室
◎定員 30名程度(先着順)
◎内容 第1部 データベースを活用して「自分史をつくらう!」
朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」
過去の朝日新聞記事の閲覧、記事の検索ができます。
ジャパンナレッジ
漢字の読みかたや意味を調べることができます。
第2部 「自分史をつくらう!」
市内印刷会社の方に直接、自分史づくり・自費出版について相談ができます。

参加希望の方は申込用紙を記入して図書館のカウンターまでお持ちください。(当日参加も受け付けております)
問合せ先 岡崎市立中央図書館
電話番号 (0564) 23-3111

実際の講習

事前資料の配布

会場の参加者席には、事前に式次第や各セミナーの PowerPoint の印刷、データベースのチラシや資料などを配布しておきます。待ち時間に参加者がセミナーについて理解を深めるのに役立つはずですよ。



開会のことば

セミナー開始を宣言するだけでなく、セミナーの趣旨や流れなどを事前に説明しておきましょう。特に質疑応答の時間があることを事前に参加者に伝えておけば、途中質問でセミナーが中断されることを防ぐことができます。

朝日新聞データベース 聞蔵Ⅱビジュアル

朝日新聞記事データベース 自分史作りに役立つ 聞蔵Ⅱビジュアルの使い方



「聞蔵Ⅱ」自体の機能についての解説と自分史づくりのための記事検索の活用が解説されました。自分史に関する記事や回顧記事などを検索し、自分史づくりの意味を理解していきます。それと同時に、記事自体を参考にして、読ませる文章表現を身につけるようにします。自分の記念日(自分や家族の誕生日、結婚記念日など)や歴史的な出来事の時の紙面を検索し、記憶を喚起、回想の手助けとします。そこから年表を作ることによって、自分史の骨組みをまとめることもできるでしょう。

ジャパンナレッジ Lib

自分史をつくらう! データベース活用セミナー ジャパンナレッジの概要と使い方



「ジャパンナレッジ」自体の検索機能や収録されている辞書類について解説されました。「ジャパンナレッジ」の活用法として、以下の4つが挙げられました。

- ①: 言葉の正確な表記、意味を調べる。
- ②: 事象の概要や由来を調べる。
- ③: 事象の関連情報や周辺情報を調べる。
- ④: 有益な参考文献や資料を速やかに探す。

質疑応答

参加者が日頃抱えている疑問や、セミナーを聞いた後に出てきた質問などに答える時間を予め設けておきましょう。

地元印刷会社との連携

いざ自分史を作ろうと決意された参加者のために、セミナー後半には、市内の印刷業者3社を招いての相談会も開催されました。参加者は、実際の作り方のアドバイスや費用についても具体的に聞くことができます。印刷業者にとっても宣伝の機会を得ることになります。

まとめ

今回のセミナーは、20名近くの参加者を集めることができたそうです。これは、データベースの利用率を向上させたい図書館側のニーズと来館者の「自分史をつくりたい」という欲求をうまく融合させた岡崎市立図書館の皆さんの企画力の勝利といえるでしょう。また、利用するデータベースの機能の理解も重要な要素です。今回のセレクトは、「聞蔵Ⅱビジュアル」で記事検索をし、その中で理解を深めたい事象に関しては「ジャパンナレッジ」で調べるという相互のリレーションもうまく作用しています。さらに、地元の印刷業者を招いたのも、参加者に具体的な自分史づくりの道順を示したという点で非常に有意義であったと思ひます。